国際会議から　アンテナと伝搬に関する国際シンポジウム（ISAP2011）

ISAPは主として電波領域の工学的な研究を対象とした国際会議であり，日本を発祥の地として，アジア地域で開かれています。1971年に仙台で最初の会議が開かれて以来，不定期に開催されていましたが，2004年からは毎年の開催となり，第16回となる今回は韓国の済州島で開催されました。参加者は10カ国から500名程で，62のオーラルセッション，2つのポスターセッションにて，アンテナ理論，測定や非接触電力伝送，EMC/EMI，テラヘルツ波の利用まで多岐にわたる発表が行われました。この中で，筆者は特別に設けられた12のセッションの一つである「電磁波の生体影響と医療応用」の中で，定常磁界から中間周波磁界までの生物影響評価のこれまでの概要についての招待講演と，後半の座長を担当しました。当該セッションは会議全体からみれば異色ではありましたが，質疑も盛況であり，電磁波の健康へのリスクの有無についての興味は高いことが伺い知れ，また，良いコミュニケーションの機会となったと思います。

池畑政輝
人間科学研究部
生物工学研究室
主任研究員

今回は，発表した特別セッションへの参加が目的であったため，会議全体は俯瞰できませんでしたが，招待元の先生方とは済州島有名店を皮切りとした懇親を含め，深い関係をつくることができたことは大変良かったと思います。

正式名称：The 2011 International Symposium on Antennas and Propagation
開 催 国：大韓民国（済州市）
期　　間：2011/10/25～28
主　　催：ISAP2011実行委員会
開催頻度：毎年
次回開催予定：2012年10月　日本（名古屋）
ホームページURL：http://www.isap2011.org/